

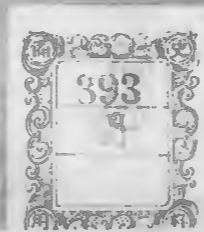
畧譜

仲心  
仲舟

二百一冊内

ナノ現共十一

内閣文庫			
五六函	二二冊	三六〇八八號	和書類
一〇架			
九八才			



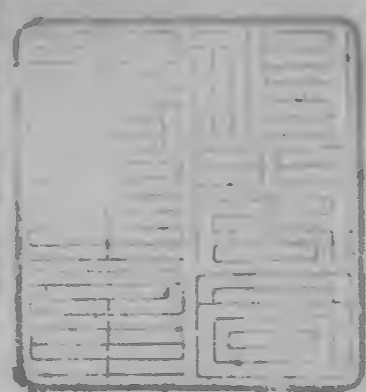
内閣文庫		
番號	和	36088
冊數	211(88)	
函號	156	17



六十一

陶  
393

東照宮御用



中山

丹治

高平

家茂

水月

記録御用所

多治

遺風

刑部

中山

家

上校家は天文二十年川越夜軍  
の時出陣し、徳と家から武川  
越よりゆかんを、時を老人のせむ  
るこころは、家福を助ふる中心  
にむす、世にそのおりにむす、か  
た人へと、かたぬき、代を  
毛る、と、いし、上校家より、謹  
一紙をゆか、天文二十年七月、  
死す、十九歳、或る、縁部、か、

中山村社に寄る

家福中山村に在り、  
今、中山村の家福、  
と、清徳寺、  
才子、  
深泊の上、  
て、師、  
旧より、

仁守の号は、この初代徳川家範も  
常依も、代々菩提所とせし後  
天保十九年、二月、江戸幕府

劫解由 初助六

家範

初代家範

小倉家範は、水原の初代徳川信直

武元は、出陣の時、家範、大石、飛騨守  
を、小瀬の城とせし、信直、小田原公  
を、くけ、城と攻、す、時、局と、置、小  
田原、家範と、後、く、家範、軍、切  
と、筋、之、級、と、す、武、田、と、叔、山、田、等  
経、城、田、守、り、と、盡、東、左、衛、門、家、範  
の時、家、範、敵、と、す、冷、と、合、蓋、兵  
の、骸、と、す、其、首、は、校、と、同

七年比奈氏野乃小山陣より時  
 榎本より敵をよめり家死行  
 りしに陰に金進教と〇元龜  
 二年信玄をよめり時乃の  
 命を家より援えり〇日之  
 年十二月十日味方より金銭小  
 軍切有信玄藏人の師の腰刀及  
 兜と物勝力い字田園宗作神守とて今中山  
 御前より信玄家より傳へ後志田重

あつた事なりと云ふに  
 今中山御前より信玄の師  
 城より小節寺に送るに級と有る  
 〇日年六月より五月頃頃迄して  
 武田勝頼をよめり時乃の河原を  
 天龍川よりよめり家死と云ふ陣より  
 石原より門より一自候と有る時  
 武田勝頼をよめり時乃の河原を  
 信教〇日年氏乃の依所を重頼  
 討

陣のよりに足取ふの下に款より物え  
城と重きとて氏料の指揮あり  
家範の御教ありて地付の家  
とての〇〇〇〇年大平の戦い  
〇〇〇年比奈の戦い左國の衆は敗  
れ幾くも其陰と公敵とて敗つ日  
十二年四月廿一日家範中山に陣  
前田範宗と利家と下は陣に家範  
の軍に敗れしとて款なりは後

つらいつらいつら平に下は款陣に突入  
首領とて二年家範の公口アノ  
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
五守城とて敗しとてなりは比奈  
氏輝小山家範と入るに横地監内及  
家範の御教ありて電とてなりは守  
城とての監内の中及びとて家範  
一箇の中九とて毎日常家範と平  
つらいつらいつら余恩を氏輝とて

未久一且前々氏耕小苗を成り  
 時家乳進言ありて運令於  
 之令得を何れ力と謂てちうさ  
 らしと無しひりりた酒未父母の爲  
 小令成令をひりりて連之遊玉  
 一いつく眼とせりて後ふ去年  
 了ふてて遊志なり院に接致ふ  
 乃ひて家乳一店に候て或切之勵  
 と教度及権を令とせりり監病致云

之中と怖畏して道をりて家  
 乳も凡後拒致を海疾一利  
 家乳奉初候て今令に候也  
 小令并旅業助よりちり後を言  
 故絶倫のまかりり教令を助ふ  
 二人は多氏に候家乳言く家乳  
 あしと云とせは候守と故は早  
 之衆のり利家彼をともひて小苗  
 京一録とも候は島おとそり者

と家名にうた初と後一と首と  
と載榜と陰一動解也其と  
とと南京城守の人とと其首  
取ととつやととと道と  
其首と持と城中と文のり武  
別と紹藤那 加治中 山村結二  
小英

比奈家の令旨に中列の権云  
と法ののとに武田たし助と長力

一振初初を直馬(ま)中山浦前と信名  
ゆうととととと

口付信云とと松毛柱とと取法目根  
野段は奈奈系系掛兜一と文

照守

初家守

初家守 初四六

比奈家の比天守守と年守初文



正徳二年合戦の時場所めく首級  
とむけくしし家底と家名より入信  
川氏と野別様より銀小の融居  
と銀小を来照と閑道より実おく  
敵と取りは家名より信をりく  
威せり。○小糸氏佐野の城と小  
野幸吉合戦の時家名首級融居大  
場をとり家名家名危く見せり  
照と取りは家名と家名危く見せり

野原も南守の合戦の時味方不  
利のとき車と筋より防戦との  
天正十六年筑波合戦の時進り  
政入と家名と合父の移物融居  
と進りしは照と家名融居と  
移物と家名と進りしは天正八年三月  
と父より家名と家名融居  
と進りしは天正八年三月

中山村は魏志の四年八月  
東照文より記され初ん高松不思  
多の事はもとよりなり或は多摩郡  
平山村より村より米から首石後  
中山村を為ると田氏の地行は下  
さるる名と云ふは事か  
名は元朝の附くしは長久保  
名は元朝の附くしは長久保  
あり中略と云ふは南針と云ふ

政入る論と云ふもの七人中山村  
解中少部族をたすは佐次を清貞  
少部族戸田も平太田其に部  
約倉者十部は字敵と城中は進  
入其名照る論と云ふもの一  
と云ふは元軍法は皆と云ふ直高  
伊豆守と云ふは元軍法は皆と云ふ直高  
七年二月より百加秩百名と云ふ

もつろの〇大坂あり陣一信との伏  
えふく

台地流ぬは使番の月つと使とて  
道の守りく部とて人相を懐と合  
中多左系紋小敵とて又照ちと  
ふれ日向ち水井の岩尾村敷ん  
るは人おまふ懐と人合敵をゆる

一 兵部大臣の御書

言と申威の山言系かもの名を以て  
少く首級とて名を以て  
少く其首級とて家人も其家  
と得る物とて地中火掛り人取  
大坂も其巻とて味を以て  
く口籍本隆勅一史殿に  
少く知も使つ物とて照子代  
位事なりと少人取とて大坂の  
とて中紙系か平方とて

揚子河をまわると依んて洋州府  
照守らるるれ今日の働 汗感  
思ふ言は悉くく 汗流陣後同  
年十二月廿六日 徳多お秩三首名  
○四月廿八日 元和三年春  
上流介忠群々 汗勅免よりりて  
且流るる 運まのりて  
右徳後殿 上意とあがり 中山勅免也  
とるるるん 亦は流るるるるるる

汗流のるるるるるるるるるる  
汗勅群謝しきく 西意のるる  
のりておれ 年のあがりんんん  
何れは 意らるるるるるるる  
是れ 亦りてるるるるるるる  
是れ 亦りてるるるるるるる  
是れ 亦りてるるるるるるる  
是れ 亦りてるるるるるるる  
是れ 亦りてるるるるるるる  
是れ 亦りてるるるるるるる

吾輩もつとつて威の討つるに我等も  
又かたし思ふべきに用意は  
懐中より経方より一紙を傳へ  
ふそつと傳はるるものよまふ必怖せ  
しものゝるる威其のよまふ雷威は為  
ふそつとつて威の討つるに我等も  
西人珍重

忠輝人といはれぬの漢方より一紙を傳へ

小核をとり後又勅を傳へ思ふに  
亦に上段より一紙を傳へ  
なむ世に傳へるるに我等も  
傳へるるものよまふ必怖せ  
しものゝるる威其のよまふ雷威は為  
ふそつとつて威の討つるに我等も  
西人珍重

六百石○日九年七月日山陰  
行

大敵後敵討○寛永十年四月廿日

石○年一〇度中山村包取山内局

○三〇年流八条家馬術飛練

名酒後敵

大敵後敵一河指番○寛永十一年

正月廿日死六拾六歳中山村住仁

奇事

思考生得症偏片一十年一〇日

度小敵之坊山

東照文行中事為病者

後杖下

也

東照文行中事為病者

貞定

初拜田 初物六

至長平年七月廿八日

古由尾初物六の口十九年八月廿九日  
薄信守の之和元年夏陣  
信守七月七日大坂殿との内詮と  
今も首二級と得陣陣の好  
口年十二月廿八日座敷等と

新和口首石名殿の京姓理

大坂に初物六初物六の口十九年六月

口初物六初物六の口十九年六月

口初物六初物六の口十九年六月

口初物六初物六の口十九年六月

口初物六初物六の口十九年六月

口初物六初物六の口十九年六月

口初物六初物六の口十九年六月

口初物六初物六の口十九年六月

吾名もろしきと云來む吾名も  
才助之節と忠死之福の日と云  
十二月廿一日定今と云り以て山深下  
山深下有死に程を来日存し  
大敵に敵しと云る也思ふ(馬術)  
まをりとの成りてつと才子  
と云ふ助と云ふと云ふなり  
名を傳りてくく云と云ふ中心と

授者山馬に云ふ今中心  
家なり

貞守

母没すの由六 新友在り

劫解也

寛永十八年八月廿一日初九日  
山深下年十二月九日家持の子  
才助親重法と云ふ名も知る



應二年二月廿五日  
治之三年二月廿五日  
三月廿五日  
七月廿五日  
八月廿五日  
九月廿五日  
十月廿五日  
十一月廿五日  
十二月廿五日

中山勅之所  
新府致達  
九月廿五日  
東光  
海忠  
二年  
年

二百隻を以て教。○日年十二月廿一日  
今之故時胎之難成方今之事  
日如浪百枚少くは。○貞享元年  
十月十二日。○貞享元年  
上意より如秋の音石。○日二年十二  
月廿一日。○貞享元年  
十月廿一日。○貞享元年  
十月廿一日。○貞享元年  
十月廿一日。○貞享元年  
十月廿一日。○貞享元年  
十月廿一日。○貞享元年  
十月廿一日。○貞享元年

初向法事。○日年十二月廿一日  
年の産又を集。○日年十二月廿一日  
日。○日年十二月廿一日  
く日年十二月廿一日  
寺に事

會  
貞次

市に座

新うまの。○日年十二月廿一日  
馬御船練より

常憲は殿下の務めの實を十二年  
二月廿七日給のうへに人切に  
時切殿口等に是等も取絶し録  
此等殿よりある

勘定使 和助六

直房

寛文六年十二月廿九日  
御免の定宗二年二月廿九日

但○貞享二年十二月廿七日  
改儀令の及○同二年十二月廿九日  
家督才是書由遺し之石多知  
○之縁二年二月十日江傳書○  
同二年十月廿七日之旨月○同  
二年十二月十八日布衣○同二年  
二月九日大坂自代七月廿八日  
江戸日九年二月廿八日帰郷

○同平年七月日皇元日御即位  
○同平年九月十日皇太后崩  
○同平年十二月二十日大坂御所  
代同平平年正月廿八日皇太后  
崩廿八日御即位○同平年十月廿  
五日一皇太后崩○同平年十月廿  
五日一皇太后崩○同平年十月廿  
五日一皇太后崩○同平年十月廿  
五日一皇太后崩

○同平年二月廿五日皇太后崩  
○同平年二月廿五日皇太后崩  
○同平年二月廿五日皇太后崩  
○同平年二月廿五日皇太后崩  
○同平年二月廿五日皇太后崩

貞女

劫七

貞女

○同平年二月廿五日皇太后崩

祿二年正月七日弘公死日等  
小葬家断

直澄

圖書

長谷川又七郎春子之好く貞享  
元年春子之好く。口書後は貞享  
元年春子之好く。死或列子樂  
政が後中村社に...

直勝

監物

實中、心動、河、中、五、層、の、次、書

春子の病、一、致、は、春、知、り、石、の  
う、ち、或、百、石、収、め、腐、子、肉、死、に、  
小、家、管、の、首、石、り、と、も、五、層、生、産  
或、後、人、と、同、じ、の、家、水、三、年、分、  
百、石、死、日、等、の、葬

来

肉虎也

家猪八百石。元禄十六年六月  
十一日死。二藏。同。年。葬。

真心

勘解由 初彰 友左 助六

天和二年七月十日。八歳。少。初。寛  
○元禄六年十二月九日。米。性。總。

○月十二年。国。存。月。十日。政。令。百。推。友  
子。家。水。之。年。一。月。七。日。家。持。台。○  
日。又。年。七。月。廿。八。日。出。院。以。○。同。年  
十。月。廿。八。日。布。衣。○。日。一。年。已。得。旨  
宣。旨。出。家。出。用。口。月。廿。八。日。出。院。以。事  
六。月。廿。八。日。功。府。○。正。徳。三。年。二。月  
二。百。九。十。九。日。奉。口。寺。○。年。

直着

勘解由 初新卷五号 助六

宝永六年七月十二日  
初七日  
初八日  
初九日  
初十日  
十一日  
十二日  
十三日  
十四日  
十五日  
十六日  
十七日  
十八日  
十九日  
二十日  
二十一日  
二十二日  
二十三日  
二十四日  
二十五日  
二十六日  
二十七日  
二十八日  
二十九日  
三十日

の村右衛門判  
十三年九月  
に事

勘解由 初新卷五号

直秀

享保十三年十二月  
日十九日

二月廿八日初見○之文○三年九月  
丁未日使書○日使平六月六日大  
垣國書○七月廿八日使府日令布  
心口六年二月廿八日使府日令  
○寛保二年四月廿二日使府日令  
七月廿二日使府日令

序

初車輝

勅解出 如 伊丹権左

實直者 汝男 初母の氏  
と稱す

寛保二年七月二十日家督○日奉  
八月十日初見○之文○三年二月  
十日使書○日使二月十日之文  
西尾城○後有月廿八日使府日令  
七月廿九日使府日令  
布衣○寛保二年八月十日使府  
八月十日使府日令



歸湯の門七年十月五日死年九  
年八月五日葬

直寛

勘解由初新置丸馬

宝曆七年十一月廿七日家傳○  
明和二年正月廿三日初之○女水  
六年二月廿七日没○日年十二  
月六日初之○日七年八月廿日

後府正月廿七日初之○日年十二  
月廿日初之○女水八年八月廿日小  
菅宿組之死○天保元年三月  
二月初之○日二年十月廿八日死  
二年九月廿日葬

直隆

如六 初勝徳

美中山園坊中直新置

貞和二年十二月廿九日  
貞和二年十二月廿九日  
貞和二年十二月廿九日  
貞和二年十二月廿九日

勝左衛門

貞有

貞和二年十二月廿九日

散有院殿中納言侍一軸  
清十景の時清十景の連舞  
一幅を以て持

大藏院  
大藏院  
大藏院  
大藏院

大藏院

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

中山勅解也照守子紹兼流八系家

子子子子子子

控見振次 伴月

右座座座

大秋座座座 授南生 上六二件 凡 每

丑年

小系道江守

憲福

加茂勘解由左衛門尉

家範

始古範

天正五年二月八日系之口吉憲様へ

皆皆之禮文其記清之趣清中候

禮文之字在左也

系乃就範公之

奉送書粉骨也

系乃家母殘也

渡筆之由外也

一人之身也

禮文之口也

論之有之也

通之也何也

系乃

天正五年

三日夕 實勝刺

加治勘解由左衛門尉

加治勘解由左衛門尉

思母

始家母

去年公年二月五日父家範之遺書  
遺書為遺書箱蓋自中山村小田原  
城守中野送公  
家範遺書箱蓋字左之邊

るるるるる

るるるるる

家母之遺書

度就之也

西之

字

位

知

後

八

...

...

〇〇〇〇〇〇〇〇

三ノ下ノ下ノ左ノ左ノ判

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

竹沢原止云云後ノ案流ノ案家ノ御  
服練止ハ他ノ身ノ月ノ事ノ一ノ事ヲ後ハ  
案陸奥ノ氏ノ群信ノ事ノ一ノ事ヲ後  
後ノ御智古ノ事ノ一ノ事ヲ後  
在毎ニ  
上ノ事ノ所ノ月ノ事ノ一ノ事ヲ後  
後ノ御智古ノ事ノ一ノ事ヲ後  
中ノ事ノ一ノ事ヲ後

と云ふは、昔の河平の事なるは、  
言ふは、流産の事也。割るは、  
と云ふは、流産の時、割るは、  
と云ふは、流産の時、割るは、  
又云ふは、流産の時、割るは、  
と云ふは、流産の時、割るは、  
流産の事、割るは、  
と云ふは、流産の時、割るは、

の事、流産の時、割るは、  
割るは、流産の時、割るは、  
中云ふは、流産の時、割るは、  
と云ふは、流産の時、割るは、  
及、流産の時、割るは、  
と云ふは、流産の時、割るは、  
と云ふは、流産の時、割るは、



右徳流極

大猷流極

案近江守憲勝院文并家範書狀

右徳流極 上御免其長中上公

宗家公大流之公長公保公推公同在

廣中山村公出公長公推公同在

城後公推公長公推公同在

上公長公推公長公推公同在

大猷流極 案近江守憲勝院文并家範書狀

右徳流極 案近江守憲勝院文并家範書狀

上御免其長中上公

宗家公大流之公長公保公推公同在

廣中山村公出公長公推公同在

城後公推公長公推公同在

上公長公推公長公推公同在

案近江守憲勝院文并家範書狀

皇使は旅法執事極三

上覽より程り長照書上家極三

都評に候書上

上とて皇使は旅法執事極三

上とて皇使は旅法執事極三

上とて皇使は旅法執事極三

上とて皇使は旅法執事極三

上とて皇使は旅法執事極三

清伊使言為極其後 清家より長  
照書上とて皇使は旅法執事極三  
則

清家より長照書上とて皇使は旅法執事極三

清家より長照書上とて皇使は旅法執事極三

清家より長照書上とて皇使は旅法執事極三

清家より長照書上とて皇使は旅法執事極三

清家より長照書上とて皇使は旅法執事極三

名使流極之素。眞是下。今只  
又。用之。爲。思。古。之。眞。利。也。亦。  
吟。味。は。之。之。之。多。は。作。付。之。之。毛。底。  
之。外。吟。味。は。根。是。亦。波。作。付。之。之。  
毛。癩。亦。藏。自。利。凡。亦。方。亦。馬。醫。  
之。は。後。之。亦。方。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
之。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。

亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。  
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。

丸種お探りなまはしは方々宗公の  
吟味の色庵蔵本之外は是を吟味候  
し遠く名傳はし馬平又丸種買上  
江油府は是也 今更に名傳はし  
上賢は其はしる石鏡照守は  
丸種の中

古使位極 上意より因り傳はし梅老  
者有るは宗公の御下り名は作付候

位し此等老年よりいし法庵喘病  
氣有出仕はし庵蔵本は 候今更  
江油府身は其庵蔵本は 江油府  
江油法は其庵蔵本は 江油府  
病氣有出仕はし庵蔵本は 候今更  
江油府身は其庵蔵本は 江油府  
江油法は其庵蔵本は 江油府  
江油府身は其庵蔵本は 江油府  
江油法は其庵蔵本は 江油府

北條の時君為 石の清和織 清忠を  
下並に照守代 将重定代と  
清忠と清和の二平は又其外清和の  
位へ 清忠の位へ 石の清和の位へ  
右平の位へ 清和の位へ 追繼の位へ  
小中園の位へ 口鞍履の位へ 又其外  
清忠の位へ 清和の位へ  
右平の位へ 清和の位へ 追繼の位へ  
小中園の位へ 口鞍履の位へ 又其外  
清忠の位へ 清和の位へ

左の書書或は色相所持は其外

右書為 糸の真織 市波流  
日尚美 忠居の清和  
千祥先 清和の道守  
拙月 取要の奉相  
江柳 少平の公剛  
外

加治勘解由臣書尉

予時慶長之穉伴之上衛 家号新

進上月史云

右母一冊之目錄云馬之宗方

一流勇拙之之是怪之之致於信

深口信守手考之之史記之云信

近江守之宗方之書之史

加治勘解由臣書尉

天保六年正月

家号

進上松平長門守殿

加治勘解由臣書尉

真定

延平府知府文照守令之部皆作法  
在任

大猷後旅於 汴前度之志以任有公  
崇德水之南宣統二年六月

大猷後旅汴上洛之古佳守之系一汴城  
行年

其書標之志之志托敵境方有父勅  
照守令之年公之方物六知者自定之

下月多次 任付之志之志動之

本年十月自本志

大猷後旅汴上洛之古佳守之系一汴城

汴前度之志以任有公

大猷後旅汴上洛之古佳守之系一汴城

咸公之志定之亦才加江勅之即直乾一固

之志之志任付之志之志動之

之志之志任付之志之志動之

上宿禰法為分し市價其の在り  
公系家馬術要成候事無成其人得  
此受工は名家 上意に承り候事  
申上定痛氣うゝ事有難事候得物  
亦申守切事有候事候人仕候事  
重犯は傳授の法候事候田加事  
有親少事候事候事候事候事  
家法事候事候事

堅守事

加治事

真純

正保年中は事勅得事定事多事  
傳法事名家 終文法書物事不候事

最者侯事 市指事 上候事 南時西九  
事 山性担事 平島書事 以中事 勅事  
事 事 事 事



車守初少

加治丹波守

車守

車守初少、有勲之節、甚耗上宗馬、術  
也、所以、廣父、車守、定、車守、耗、上、宗、馬、十  
七、本、之、上、宗、馬、術、法、也、然、上、宗、馬、氣、也、宗  
子、之、家、續、經、也、有、才、市、之、車、守、次、也、  
術、便、法、及、行、門、紅、墨、境、也、上、宗、馬、例、通  
有、勲、也、初、少、之、也、法、也、有、才、市、之、車、守、

之家法相續也

車守初少

加治市

車守

車守初少、不知見母、故、有、車、守、也、  
皆、所、法、也、

最、者、院、極、也、代、度、之、家、也、以、上、有、度  
車、守、也、初、少、也、

常憲法存正清稿南中上元寬文之  
辛丑年八月五日  
方所存正清稿

寬文十二年八月廿五日論之  
人切其才脚时切腹法行八筆家  
之之漸郵絶法

劫之脚車花想

加治劫之

貞照

加治市之坐車人死云云馬淵之  
絶有知母時之車身之車大和与云  
劫之坐車照之馬淵之家お漢方は及  
候有親り知欲之世大和与云何道  
車身之車江漢之公甚後車照之  
間矣中清列産之江作海之決  
之坐車思及之八筆之運轉之有  
漢家漢江枕名お願既長長紙紫



在漢法其後生秋四馬海浩法所既也  
我既多古法也

加治劫之矣

真書

重原之中年入月下野書並好痛  
氣有本多伊能寺殿上為田量書  
之在之寺之寺法中已劫之矣重方  
所授之法也既之何也重何也

年十月十日何也法何有秋法

右劫之應直方之文亦年十月十日  
病死法何有秋法何有秋法  
何有術法書物八余之何有實法  
法之亦家死也何有也書快也何有  
之何有也何有也何有也何有也  
右通法何有也

寛政之末年一育中山勝太郎

中山勝太郎  
高千穂藩士  
家系  
高千穂藩  
中山勝太郎  
高千穂藩士  
家系  
高千穂藩  
中山勝太郎  
高千穂藩士  
家系  
高千穂藩

東照宮御代

中山

高千穂三百石

藤原姓

家紋  
三階三番菱  
五三之桐

中山民部大浦勝時曾

五平次

勝太郎

天正十年明智謀反之時

東照宮御智海堂  
御船為百石足者五人并  
五騎并乘此船。再。○甲午年  
十月

東照宮御智海堂  
御船為百石足者五人并  
五騎并乘此船。再。○甲午年  
十月

慶長七年四月廿九日  
北

辛次

勝信

台德院殿  
百餘石

平右衛門

十之四

勝卓

曾者永井典豐前曾直直曾

實永十年曾家二十一年一節

新製西性五百條。卷子。

中書院五。實文二年二月廿六

家。延寶七年九月廿八日

二百條令八百名御流頭。四年

十月布衣。天和二年四月加

扶五百名令千二百名。元禄二

年正月十四日先子千二百名内

二百條。此等。此引。此等。此等。此等。

早十年十月。此等。此等。此等。此等。

十年正月。此等。此等。此等。此等。

永享十年。此等。此等。此等。此等。

年九月十九日七年七月廿五日  
寺

重之丞 十玄清

勝頁

元禄四年十月二日  
五年七月廿八日  
年四月廿二日

寺有九月。不烟。同九年十月  
領事。同九年十月  
同寺

勝

至水



元禄九年七月... 惣領○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○  
永五年正月知見○

勝富

平衛門 重治 年水

在 原 年 休

享禄十三年十月廿五日...  
同 享禄十三年十月廿五日...  
同 享禄十三年十月廿五日...  
同 享禄十三年十月廿五日...  
同 享禄十三年十月廿五日...

十一年七月十日。通事。○  
明和七年。皆月。○  
年。才。廿。三。病。之。○  
二年三月。○  
十。九。八。十。五。年。○

辛亥 重 在

愛勝

天明二年三月廿七日。家督。○  
九月十九日。初見。○  
十月。○

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

懷信院殿代

武雅  
可出

中山 義

藤原 雅

高平 康 五 扶 持

家 教 丸 内 學 成

大藤 冠 舞 之 八 代 後 裔 俵 藤 大 秀

卿 十 二 世 孫 河 村 三 郎 義 秀 次 氏

川 村 玄 次 郎 玄 宿 氏

天 正 十 二 年 根 兼 寺 止

東照宮秀吉西使中條元正等公

救處不從秀吉如依

東照宮<sup>之師</sup>秀吉曰。天正十一年尾州之戰

長久子山島島之師。如相來。天

坂表。出陣。連。秀吉大坂之陣。

此乃實事知川越中。田畠筑前。上。決

一戰。泉。岸。留。邊。津。江。云。伯。孫。勤

院。上。相。進。登。山。上。整。軍。備。決。戰。勇

烈。福。康。七。義。法。○慶長五年。關原

川。陣。中。後。○日。七。年。根。來。節。目。以

北。至。五。年。春。三。人。扶。持。○大。坂。兩

度。之。陣。中。後。○日。十。九。年。尾。州。之

中。先。年。出。陣。伏。見。山。陣。事。中。勤。○

如。後。有。一。一。年。康。高。城。○實。永

三。年。江。戶。集。事。上。上。皇。威。願。伊。豆。○

史。記。在。成。實。永。三。年。一。一。年。五。年。五。劫

右一子有川村大團圓者勝也

中守助 川村能 壽山

章武

享保元年父章勝家督百人組同  
○早卒三月卒山莊將出候。同  
十三年四月先山莊出候。○寛保三  
年羽江。○明和二年三月十一日死

右一子有氣并其留馬場中振言  
周寺 高村百人組同川村大  
節章勝也  
右章武曾

忠助

武雅

宿曆七年十月新設西條山院

古本係五ノ林枝。○曰九年九月十  
三ノ日。○曰九年九月  
廿九。○曰是夜。○曰九年三月廿五。○曰  
植木。○曰九年七月廿九。○曰九年九月廿九。  
○安永二年七月廿九。○曰九年九月廿九。  
才改設。○天明七年十月廿九。  
○寬政四年二月

世常才。○曰九年九月廿九。  
吹上。○曰九年九月廿九。

長之丞

一吉

天明八年四月廿九。初見。○實政三  
年八月八日。世常向武藏。○曰九年九月廿九。  
○曰九年九月廿九。

大の時服二。○同九年九月廿七日  
草席及物二。○同九年二月晦日  
同七年遺了關應納。○同九年十月  
二。表山右左。○同七年四月十九日  
餘洲及物三。○同九年十月十九日  
吹上馬洲及物二。○同九年十月十九日  
七。於聖堂。問以合建及物三。○同  
九年九月十九日

後明院殿十三面山忌。○同九年十月十九日  
并。懷銀五枚。○同九年十月十九日  
并。物懷金五枚。○同九年十月十九日  
西。古。集。見。可。

*[Faint, illegible handwritten text on the right page]*

漸

東照宮御代

中山

藤原姓

高七万石

家教 文孝後 九萬石  
階姜 五萬石

中山家部大補藤原中務藤原

勝政長子

氏重門

忠光



天正五年之頃水野忠勝屬重  
○同年長久手合戰刻功名仕  
○同年小田原城  
夜討村功者有太閤帷子  
銀錢給下以所給○同年十月  
東照宮被築○同年九月  
於德國寺者中其山割物兼  
元和二年五月廿三日將忠勝口

○慶長五年開原陣  
○同年開原陣功係加  
秩二百名合七百名大書○同年  
七月十四日二年五月某葬  
高野山

忠勝

茂左衛門

慶長三年家督。○同八年大  
中書。○天政兩部。○寬永十  
年加藤二百名合九百名。○萬治二  
年十月四日。○西之原天  
德寺。

權衛門

勝久

寬永九年賀。○同四年大  
佛書。○萬治二年家督。○同三  
年十月廿五日。○延寶  
二年六月廿三日。○同。

權衛門

勝尋

萬治元年初賀。○寬文十二年青

元禄中奉子育之  
其心増り重なり

元禄六年八月四日  
延寶元年九月名  
百石

元禄六年九月名  
百石

元禄十四年十月廿五日  
元禄十四年十月廿五日

元禄十五年十月廿五日  
元禄十五年十月廿五日

元禄十五年十月廿五日  
元禄十五年十月廿五日

元禄十五年十月廿五日  
元禄十五年十月廿五日

元禄十五年十月廿五日  
元禄十五年十月廿五日

元禄十五年十月廿五日  
元禄十五年十月廿五日

久敬

権園

元禄十五年七月十五日

元禄十五年八月十五日

元禄十五年九月十五日

元禄十五年十月十五日

元禄十五年十一月十五日

元禄十五年十二月十五日

權左衛門 長太郎

勝部

享保十五年四月朔。初見。○同年  
十一月廿七日。忌。○同年四月  
九日。小姓。○延享四年十月七日  
山崎。○同年布衣。○同年十月  
三日。

後明後曆。○宣曆十年。○同年九月勤。  
日。○同年九月廿五日。○明和年  
七月廿三日。病。○同年四月  
十五日。○辛。○同年四月。

權左衛門 彌次郎

勝直

宣曆十二年四月十八日。初見。○明

和元年十月廿六日。陸奥。討。反。物。三。  
國。身。曾。廿。六。日。行。○。同。五。年。  
七月。四。日。家。督。○。同。六。年。十。月。廿。六。  
日。初。戶。部。丞。○。同。六。年。四。月。廿。六。日。  
陸。奥。討。反。物。三。○。同。七。年。五。月。廿。六。  
日。行。○。同。八。年。五。月。廿。六。日。安。永。  
五年。七。月。廿。六。日。紀。三。年。二。月。  
廿。六。日。○。同。九。年。五。月。廿。六。日。

乙三郎

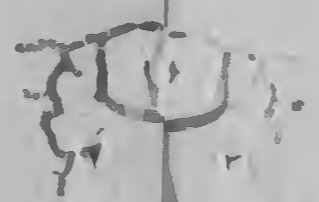
勝高

安永五年十月八日。家督。○。同。  
十。月。廿。六。日。初。之。○。同。八。年。十。月。  
廿。六。日。二。年。家。督。同。寺。

信濃守 藤七郎 肥後守

勝心

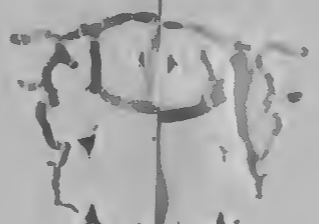
實者中矢隅の時壽三男  
養子。安永元年青之島者。同  
年八月廿五初之。天明三年有  
苦作請戸。同年十月十日



○同業四月廿五。同業大右衛門。  
同業四月廿五。同業大右衛門。  
同業八月廿五。同業大右衛門。  
同業二月廿五。同業大右衛門。  
同業三月廿五。同業大右衛門。  
同業五月廿五。同業大右衛門。  
同業九月廿五。同業大右衛門。

善美印莊。○日七年三月四  
日方印庄將出紙

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



台德院殿御代

中山

高三首俵

丹治姓

家殺外飛月  
唐杖

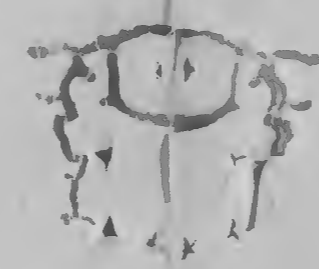
中山勘解由與守物

勘解由

守勝

會者高山守勝園系長

台德殿中代中山勸解由學上内升之  
内島洲正者山壽之册守勝能  
法中下之處惺之慈苗之為名系  
極上之意之故有高山之中山之政  
新設三百俵山馬頭○實支六  
年三月上死葬大塚寺傳寺



某  
朱雀園門

年月考部屋住山朱雀園○山馬  
山頭○所藏之水鳥兩書  
水死葬同寺

守安  
勸學園



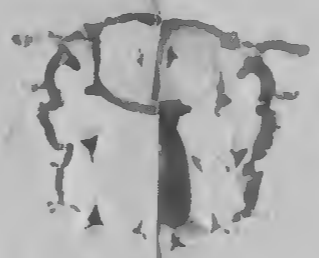
實者高宗天皇御

年月之考考之續之亦考子。寛  
文元年七月九日家督中島於。元  
禄十二年正月九日葬同寺

勘定

守重

元禄十二年四月十八日島於。同



祭

享保十九年十二月九日二百石

年七月九日家督。正徳四年有  
先葬同寺

勘定

初 丑之風

守宣

享保四年八月廿三日家督中島  
。享保十九年十一月。寛保二  
年七月九日葬同寺

三四部

寺直

曾著伊東忠尚祐矩三重

寬保二年十月三日卷之三十一。延  
享三年十月十日西條半人。寶曆  
二年十月病免。天明八年七月亦  
之。延享。○寬政元年十月九日卒

四氣齋同寺

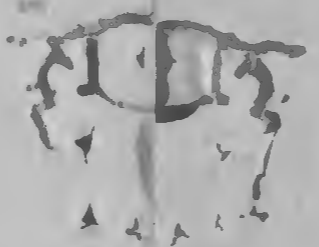
齋

克巨

曾著福田孫次郎安住次男

安永元年九月廿五日葬。○天明八  
年七月廿六日。家督。○寬政三年十月  
廿五日卒。○同元年九月十四日

時服。○同六年三月廿四日。於復所  
弓射極之。疾少。直館所。同力之内。  
被。作。清。之。右。用。相。動。の  
○同七年三月廿五日。金。鑑。の。子。○  
同八年四月晦。大。の。時。服。二。○同九年  
八月廿七日。表。の。若。老。○同九年九月  
廿九日。表。の。若。老。の。日。宿。勤



台徳院殿御代

中山

其名加

其二年百石

丹治姓

家数外十月  
鹿枝葉水月

中備前守信吉二會

信久

遠江守印隱岐守

至馬

寛永八年正月十五日。初見被。〇

三百俵。○同十年。○中姓組。○實支  
○同十一年。○中姓組。○同年  
○同十二年。○加秩三百俵。○同十三年  
○同十四年。○先。○中姓組。○天和元年  
○同十五年。○盜賊改加設。○同十六年  
○同十七年。○慶金三枚。○同十八年  
○同十九年。○改科五百俵。○同二十年  
○同二十一年。○勘定。○同二十二年。○加秩

千石六百俵。○同二十三年。○叙爵。○同二十四年  
○同二十五年。○改秩。○同二十六年。○改秩  
○同二十七年。○改秩。○同二十八年。○改秩  
○同二十九年。○改秩。○同三十年。○改秩  
○同三十一年。○改秩。○同三十二年。○改秩  
○同三十三年。○改秩。○同三十四年。○改秩  
○同三十五年。○改秩。○同三十六年。○改秩  
○同三十七年。○改秩。○同三十八年。○改秩  
○同三十九年。○改秩。○同四十年。○改秩  
○同四十一年。○改秩。○同四十二年。○改秩  
○同四十三年。○改秩。○同四十四年。○改秩  
○同四十五年。○改秩。○同四十六年。○改秩  
○同四十七年。○改秩。○同四十八年。○改秩  
○同四十九年。○改秩。○同五十年。○改秩  
○同五十一年。○改秩。○同五十二年。○改秩  
○同五十三年。○改秩。○同五十四年。○改秩  
○同五十五年。○改秩。○同五十六年。○改秩  
○同五十七年。○改秩。○同五十八年。○改秩  
○同五十九年。○改秩。○同六十年。○改秩  
○同六十一年。○改秩。○同六十二年。○改秩  
○同六十三年。○改秩。○同六十四年。○改秩  
○同六十五年。○改秩。○同六十六年。○改秩  
○同六十七年。○改秩。○同六十八年。○改秩  
○同六十九年。○改秩。○同七十年。○改秩  
○同七十一年。○改秩。○同七十二年。○改秩  
○同七十三年。○改秩。○同七十四年。○改秩  
○同七十五年。○改秩。○同七十六年。○改秩  
○同七十七年。○改秩。○同七十八年。○改秩  
○同七十九年。○改秩。○同八十年。○改秩  
○同八十一年。○改秩。○同八十二年。○改秩  
○同八十三年。○改秩。○同八十四年。○改秩  
○同八十五年。○改秩。○同八十六年。○改秩  
○同八十七年。○改秩。○同八十八年。○改秩  
○同八十九年。○改秩。○同九十年。○改秩  
○同九十一年。○改秩。○同九十二年。○改秩  
○同九十三年。○改秩。○同九十四年。○改秩  
○同九十五年。○改秩。○同九十六年。○改秩  
○同九十七年。○改秩。○同九十八年。○改秩  
○同九十九年。○改秩。○同一百年。○改秩

信庸  
源成守  
五郎  
五郎

信庸

牙直門  
至馬  
利右馬

承安九年  
實者中山後前守信治男

寬文三年春子。○天和元年二月

初見。○同三年九月廿五日。

中山性江。○元禄八年二月廿三日

性江子。○同十二年十二月七日。

水者前中納言殿病氣為 山尋水

原 山後山服。○寶永五年十月廿

五日。西丸山留子。○同年十月八日

叙爵。○享保三年七月十五日。

中書殿山生山房山月。○同月

廿七日。取之。取禮銀五兩。授山服

六。○同八年十月十五日。山房山月

白髮。若上蒙。山意。金五兩。授山服五

○甲午年八月廿九日。病之。屬合。同  
身。去。有。才。九。日。結。江。○甲午年正月  
廿六日。死。年。七。歲。葬。日。也。

至馬

信敬

享祿三年八月十八日初見。○日  
甲午年正月廿九日。葬。日。也。

甲午年十月十九日。家。○甲午三  
年九月十日。葬。日。也。  
文。年。九。月。十。六。日。死。年。三。十。三。歲。  
葬。日。也。

信將

至馬

金

會者。留。至。膳。一。仲。波。男。

元文二年九月十日卷子。○同年同  
十月二日卷子。○延享三年四月廿八  
日書院金取集。○寛延二年七月時。  
○書院金取。○寶曆十年三月時。○使  
使書。○同十年八月十日。○駿府時  
日。○同十年九月。○明和八年  
四月十日。○伊予。○伊予。○伊予。○伊予  
三月十日。○大坂。○大坂。○大坂。○大坂

軍士。○四月。○病。○病。○病。○病。○天明  
八年七月廿六日。○天明八年七月廿六日  
二月廿六日。○天明八年七月廿六日

信卷

至馬

大助

明和七年十月十日。○天明  
八年七月廿六日。○天明八年七月廿六日

八月五日 申時

*[Faint, illegible handwritten text]*

大猷院殿御代



中山

市名

高六百名

丹治姓

家数外取内月  
虎杖

中山勘解由四守一會

勘三郎

直範

寛永二年七月初日



年三月年六父遺跡三年五百六  
足助六直定也年只直定部屋位  
科五百七直定○寬永十五年  
書院番○駿府書書再越五月在  
寺之屋馬之儀中用有被百端  
重幸蒙 之意○

嚴有院殿西之山移院之部山附山性組  
八系家馬洲之屋之儀去物領先人之

傳授可任信家直意院中生之想  
正保年中只勤解由直定病氣身  
乘馬也之我解直守知少之再考  
同候之直勘三所直靴傳授可  
法有同直被 作日則直之之  
法上傳八系各書物未待直人○  
明曆二年十月八日

嚴有院殿 山馬 山系家之儀 山之

重年蒙 上意金三枚附服所行  
中者拜領。○同年中夏山番。○同三  
年正月蓮心山馬場。○山集初  
之節 所自所曆年頃載は事  
月身每身定暮者黃金拜領。右  
所寫中事。○上事日日被為官  
所相子法其節。○古時字四通持傳  
再事。○同年七月。○同事之合

○同年十二月。○年七。○希衣。○萬治  
二年正月十七日。○於殿。○日根野權  
十郎。○口論。○出。○羽平八。○於評定  
所都。○武部。○大補。○書。○子。○一。○所。○山。○頭。○在  
作。○付。○穿。○人。○扶持。○被。○下。○曾。○持。○所。○並。○路  
在。○在。○越。○五。○年。○一。○事。○一。○。○實。○文。○三。○年  
胃

大藏院敷十箇山是。○身。○山。○田。○我。○所。○之。○美

中山丹波守直子  
元禄二年七月卒  
于所居  
其葬所  
在丹波国村東園寺

嚴有處所  
外免  
其葬所  
在丹波国村東園寺

其之

直也

台德院敷  
直也  
中山丹波守直子  
元禄二年七月卒  
于所居  
其葬所  
在丹波国村東園寺

登城内初注。其後、  
再考、其子は其命、  
道。同日、  
合二百名。宣永七年、  
十五、  
同至五百名、

台、  
自、  
亦、  
其、  
可、

勘定書門

直安

曾著中山勘定書門守贈海月

卷子。宣統七年十月廿九日。家督宗合

○宣統元年十二月七日。元葬

麻布百軒所守之院

勘定書 元右之 五卷八

直方

曾著中山勘定書 水戸殿家主

宣統元年十二月五日。家督宗

請。宣統二年初九日。同九年十

二月九日。山内性恒。同十年正月

十九日。病免。○元文五年正月辛

卯。元葬麻布百軒所守之院

貞平

勘定 吉三郎 菊池

水戸藩 實曆元年三月廿三日

元文五年四月廿三日 家督

同月廿九日初之 實原元年

十月廿八日西丸中姓 延享二

年九月廿日

大府殿附 實曆元年十月廿三日

貞平 元文五年 同寺

三助

八五

直敷

實曆二年二月廿三日 同寺

三月十八日初之 明和三年十月

年十月廿九日 同七年十月

四日 同七年十月廿九日 其後

度○安永八年四月十六日御奉出勅  
○天明元年五月廿三日御奉出勅○同  
年閏五月十八日  
若若附○同二年九月廿九日死  
生二年廿五日同也

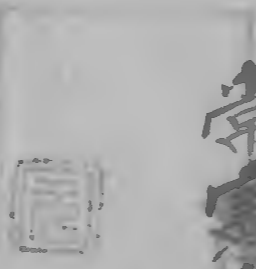
直温

勅出 豊吉 終極也

天明二年十二月四日御奉出勅○同年  
十二月廿九日初八日○寛政元年十月  
二年二月廿九日御奉出勅○同二年九月廿九日  
吹上大的御奉出勅○同三年<sup>若若</sup>御奉出勅  
鳥羽御奉出勅○同四年十月廿九日  
御奉出勅○同八年十二月十日  
若若附

Faint, illegible handwritten text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

常憲院殿御代



中山

丹治姓

高三百歳

家茂 辨取 内月 虎殺

中山勘解由 忠守孫中山孫國直張  
勇

直道

市口

内膳



始。水戸中納言。物仕。○元禄六  
年。正月。桐。官。中。書。三。音。儀。○日。集。年  
正月。中。書。性。性。○中。書。性。性。○日。八。年  
九月。中。書。性。性。○日。生。年。正月。中。書  
元。禄。年。正月。中。書。性。性。○中。書。性。性。○日。八。年

任。書。門。第。○  
元。禄。年。正月。中。書。性。性。○中。書。性。性。○日。八。年

直。書。會。所

實。著。中。山。勲。老。門。信。是。會。  
元。禄。十。三。年。七。月。十。日。家。督。中。書。  
合。○實。著。年。十。月。十。日。中。書。性。  
組。○日。集。年。十。月。十。日。中。書。性。  
性。○日。集。年。十。月。十。日。中。書。性。  
○實。著。年。十。月。十。日。中。書。性。  
中。書。性。性。寺。

帶刀

研宮

百武

曆者言者探天部正理三言  
卷子。延享二年十月廿七奉  
旨。同年十月十六日及  
性。曆二年二月十日  
所成之鳥射當時股三。大  
之。同三年八月十日

葬回寺

茂衛門

多倉

直世

曆三年十月四日家督。明和  
五年二月廿九日。性。同  
十月廿七日。所成之鳥射當時  
晦。股三。實。十年二月十日

病之五...

亥三所

直通

實政三年三月廿三日

○日掌生月廿五日

十月九年十月九日

等稱...

大猷院殿御成

中山

高九百五十五石

丹治姓

家紋...

中山勘解由四守卷二

甚右衛門

信良

曾者長布右衛門...

實父為重由慶長年中由信士。日三  
年於駿府二百五十年。元和年中故  
有浪人其以長男名若林和子。  
養子成信。其後身月名守母書  
教父之緒。係為家三男。慶  
長十七年十二月。由信士。  
上皇。○中世性。○大正。○  
六百五十年。下。成下。○承應元年

十有七年。二系。○中世性。○  
葬。若川。祥。寺

信定  
勘齋門 勘齋 素入

承應元年。家書。○實父。三年  
十有十九日。○中世性。○  
年二月。母。相。○四年。三

九日山少納老武所<sup>同日平正四日</sup>口<sup>三</sup>部<sup>三</sup>加扶三  
夏○<sup>禮</sup>禮<sup>永</sup>年高合○<sup>對</sup>對日<sup>三</sup>言<sup>儀</sup>  
○<sup>享</sup>享保十年九月廿三日<sup>九</sup>分<sup>年</sup>氣  
葬回寺

勘助

市右衛門

信興

元禄四年十月廿三日<sup>山</sup>書<sup>後</sup>言○<sup>同</sup>

○<sup>同</sup>同身七月<sup>廿</sup>日<sup>五</sup>  
○<sup>同</sup>同身三月<sup>廿</sup>日<sup>五</sup>  
○<sup>同</sup>同身七月<sup>廿</sup>日<sup>五</sup>  
○<sup>同</sup>同身四月<sup>廿</sup>日<sup>五</sup>

勘右衛門

信明

實者中山帶刀<sup>直春</sup>次男

養子○享祿二年三月廿六日家督  
中書清○同元年七月十二日書  
院子○同曆九年閏七月十日病  
死書信○明和八年五月十二日  
卒○同元年正月十日

長門 外記 勘儀門

信勝

會者之方備中雄略四

明和七年九月廿三日養子○同  
八年八月廿三日督○安永二年正月  
廿三日書院子○同元年五月七日  
病死○同元年十二月十日布衣○  
實政五年十月二日殿前○同元  
年七月八日  
通關前友長殿並死

所書字

張昭若名印香真色遠百子有月日月  
廿八分之二。日身九月十日歸府。

詹報

其古園門 重慶 外記

天明八年三月廿六日初之。實改  
五年十月廿六日小姓

大猷院殿御代



中山

孝苗  
加右

高五百名

丹治姓

家致  
外取  
内月  
虎杖

中山勘解由直定勇

孫多國

主執

直張

保保二年十月十九日直張五百

直次 市之丞

所遺三卷。○寛文  
十一年四月廿三日論立  
浪之切、切腹民務

石。○慶安元年七月十日初見。

同三年九月三日。○中書院書。

嚴有院殿附。○延寶八年九月於信州

初奉。○此書信濃。病死之石檢使

中。○日年十月晦。元甲七年

葬。○武。加。中。村。能。在。寺。

至秋 内記 月日守 長 下野

直好

延寶元年十二月。○初見。

同八年十月。○家督。○考。○

天和元年。○中書院書。○同二年

中書院書。○同三年。○中書院書。○

貞享元年。○叙爵。○同三年。○小

普請。○日年十月。○小。○同



甲午高麗流八家高麗家傳  
相續可日名被仰中島島  
直道傳授信一。○日年小  
善傳入。○元祿七年十二月  
中島作書。○日年知了所武  
國新莊那薩活村上德武對  
那成集村。五百石用一。上  
書替中後全香西那新希場村

松林山野造村三村。高六百  
八十二石。甲申九合三十七石。  
併一百八十二石。甲申  
九合三十七石。甲申。○元祿十四年。日  
痛一。病一。○元祿十五年。  
快氣身。七。願年。始。山。頂。  
素時。服。拜。領。○元祿十七年。五  
月。十二。日。元。祿。十八。年。元。祿。十八。年。

外記

直兼

直延

元禄十五年和見。○享保十三年  
八月十九日家督。○同十七年閏五  
月十六日赴任。○同十八年八月廿三日在  
十三年葬。同寺

伊織

繼殿

直武

實者直好二重

享保十五年十月七日卷子。○享保  
十七年閏五月十日家督。○同年  
十月廿八日中納戸。○同年四月  
布衣。○同十八年三月八日死。年  
三十一葬。同寺

藤原朝 加治善就 存藏

直教

周防守 中野守 伊豫守 中野守

實者中勘解由直者言

享保十八年九月六日

○同年十月朔日

十月十八日西

十月十三日初夜 ○延享二年九月  
廿五日

懷信院殿所奉丸中移替

二年十月十三日

十月十九日

年十月十九日

後明院殿附 ○宣曆二年十月十三日

後明院殿所 抱孫守 日其云 中酒湯

為百回書也。山程後。為金三夜射服  
貳。後

後嗣院殿。卷物二。○酒曆五年。官月  
二。山威之鳥射當射服三。○同年  
五月。廿三日。葬。城。出。○同年。十月  
九。○中流頭。○安永五年。四月。是  
御社系。後。○同年。二月。廿五日。先  
手。山。頭。○實政九年。八月。廿  
日。鑿。也。

藤本園門

重吉

直遷

寶曆三年三月廿五日  
明和七年四月。初見。○安永五  
年。十一月。十九日。○山。姓。○實政元  
年。三月。廿三日。○病。○同年。四月。廿  
物。領。除。○同。年。八月。廿五日。○先  
二。年。五月。同。寺。

伊織

龜結

直經

實著直還長男

寛政元年九月九日嫡孫承祖。同  
年十一月十八日初為。同日年十月  
廿九日卒。同日年八月廿九日  
死。年五十五歲。葬。同寺。

要人

輝吉

勝雄

直與

實著直還長男

寛政十年九月七日嫡孫承祖。○  
同年十一月廿九日初為。

榎田殿



中山

藤原姓

萬二千俵之持

家教肥前葉

先祖不詳

源氏

利勝

元禄十二年浪人于櫻田之殿

中後相の代に平儀之扶持。○寛永  
元年十月西丸山廣文伊智。○同  
七年中後相平儀合三年儀之持  
○寛保十三年甲申病之普請。○  
同十三年九月廿九。○元禄十三年春  
林寺

源氏  
利及

寛保十三年十月三日。○同  
十七年十月廿六。  
天竺院殿山廣文伊智者。○元文  
元年十月三日。○元文二年。○延享  
元年八月十日。○文政元年。○寛政  
八年十月十八日。○同

十一月朔初見。同平年十月  
廿四日。佐野。平。初見。同平年  
二月廿七日。山。殿。金。若。救。財。殿。式  
。明和元年八月。平。九。若。非。佐。野  
相川。築。所。專。光。寺

利 鍊 頁 五 部

實者。支。離。勘。三。加。藤。牧。七。所。地。照。男  
。實。曆。十。二。年。十。百。廿。九。智。尊。寺  
。明和元年十月九。家。尊。○  
同平年十月廿。初見。同平年  
。平。廿。六。山。勘。三。○。天。明。七。年  
。平。廿。七。山。料。町。初。見。三。月。○。竟  
政。元。年。平。廿。五。山。殿。○。信。原。越。後  
佐。渡。平。廿。越。○。同。平。十。月。廿。八。日



福。同九年十二月廿九日拂去金  
赤。〇

源之助

利貞

曾者百廣義海与八海律言

天而七年三月廿九日。有表子。〇實後  
辛未九月二十三日。〇

積里殿

中山

藤原姓

高百孝孝康之精

家致丸内様内子子

先祖不詳

又在傳門

顯信

駿河大納言殿。中先子没智子言

石... 勳... 海... 勳... 浪  
人... 立... 天... 年  
昔... 九... 年  
出... 寺

年去夫

顯長

萬治三年正月十八日 檢田出殿所

廣... 保... 持... 元... 得...  
年... 清... 日... 年... 月... 日...  
通... 江... 堂... 保... 四... 年... 七... 月... 廿... 九... 日...  
十... 九... 年... 葬... 回... 寺

年七解

顯廣

元禄十一年七月十二日 家督。同

十年十月十六日播磨殿火事  
○寶永元年一統寺遷請。○同二年  
正月十八日二年二宮寺葬回寺

平倉門

源古所

頭成

寶永元年十月十六日平倉門定舞會  
寶永三年十月十六日平倉門定舞會

寶永五年十月十六日表以之番。○享  
保二年三月廿七日。○日永年  
三月廿七日。○元文二年  
三月廿七日。○延享二年  
三月廿七日。○長享二年  
三月廿七日。○長享二年  
三月廿七日。○長享二年  
三月廿七日。○長享二年

葬回寺

八十師

八十八

顯慈

元支五年五月廿八初見。○夏延  
三年九月二日。○實曆二年  
二月廿九日。○年七歲葬回寺。

年七師

重生

顯生

實者顯成重

實曆二年五月七日。○卷子家督。  
日軍三月十八日。○西條寺十人。  
早一年八月三日。○在城動。○月  
年十月十日。

孝養院殿附。○安永八年四月十日。

所事史勤。天明元年五月廿九  
勤。同年十月四日。頭。同日。年  
十月廿九。并葬。同日。年。年。年。年。

右膳

顯親

曾著。中野。傳。十。所。道。高。海。男。

安永四年三月廿五日。曾著。子。同  
七年七月十九日。曾著。子。人。天明  
五年十月廿九日。并葬。二年。五年。并葬  
同寺

新五郎

顯貞

曾著。野。山。并。傳。十。所。道。高。海。男。  
天明八年五月廿九日。并葬。子。同。寬

政元年八月十九日初見。○回奉十二  
月廿五日。○

四

...

台德院殿御代

中山

藤原雅

高直儀五小執持

家教石解自花送海  
三子



大禰冠輝三後胤中山穴九所勝之

妻今川家長中山穴九所勝光

長男上野國浪人中山穴九所

深勝直長子

清光園門

勝重

元和八年浪人... 中... 占...  
○... 進... 物... 書...  
應三年... 月... 七... 死... 葬... 中... 是...  
新... 華... 院

當膳

武藏園

明曆元年... 家... 書... 請... 因...  
年... 進... 物... 書... 延... 寶... 三... 年...  
表... 火... 之... 五... 天... 和... 二... 年... 出... 行... 日... 也...  
同... 二... 年... 二... 年... 傳... 加... 持... 者... 也... 貞... 享...  
三... 年... 本... 丸... 出... 廣... 文... 海... 也... 元... 禄... 九...  
年... 五... 也... 出... 廣... 文... 海... 也... 元... 禄... 三...

買世元葬回寺

持勝

藤土夫

實父不吉

元禄元年拜喜子。同二年

買世元家督。同五年中流自序

。享保元年病免。享保。同元年

元正。同元年三月廿二日葬

回寺

二部書院門

持重

享保元年十月廿二日家督。同六

年八月廿二日死

葬回寺



八節古園門

勝頭

實者中宮藤美持勝勇

享保六年卷子。同年十月十日  
寺直下中島見。同九年三月深  
川節鳥殺生人住居。處不改  
必不心掛之段。中居有。其意也。

宗島見一編。辛。遍塞。山見  
○寬延二年四月十九。中島之症歌  
○寶曆十年正月十日。細之歌。  
明和五年七月八日。病為。日年  
八月十八日。在。天明三年。曾  
十。元。年。三。氣。其。葬。同。寺。

勝喜

源八郎

寶曆元年九月卷子。明和七年

八月十八。家督。安永四年有

廿二。其定所書物。同。同。同。

三月。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

年。其定所。同。同。同。

勝信

金次郎

胡天明八年十月五日

*[Faint, illegible handwritten text]*

大猷院殿御代



中山

高百俵五枚持



藤原姓

家我北内年云

中山庄唐園門基可

新南園

義信

寛永十三年新規作迄七年俵

五人扶持○日平年表久○同年夏火之也

相和相和少母老兼子身月不

知中兼傳入表火之毒力多矣火之毒

中和力四谷内多為多敷採

相和少傳少○延寶三年正月

廿二日死少葬少○表石川京

下正福院

信重

伊藤園

延寶三年正月十一日家督○日平

正月八日表火之也○元禄五年

三月廿三日表火之也○加秩

二年儀合百儀立扶持○續永

年十月廿六日大表火之也○每

○延寶四年九月四日死少葬少○每

彌生街門

義卷

西暦其年自日

會者平市時在街門義強會

正德三年二月廿九日拜書子。四

年十月廿九日。家督。古子保

詠二年十二月十日。二日。山廣敷添

書。同三年四月廿日。

澤圓慶後山廣敷添書。宣德七年  
九月八日。元平山廣敷添同寺

彌生街門

卯

義棟

會者山廣敷添書。宣德七年

宣德七年十月廿九日。家督。同

十七年三月廿九日。山廣敷添書。

延享三年正月六日新刻大東山殿  
令年長為中書信少用。○日年  
正月廿五日西為上中夜。○日年正月  
十日中移移中書信少用。○日年正月  
庚銀之收。○日年四月十日所  
奉之。○相動通中書信少用。○日年  
○日年九月十日大東山殿令年長  
房為中書信少用。○日年八月十八日所

日年九月十日大東山殿令年長  
十月十日中書信少用。○日年  
庚銀之收。○日年正月廿九日  
年本中書信少用。○日年正月廿九日  
二枚。○日年正月廿九日

有德院殿奉所。○日年七月廿九日  
中書信。○日年九月十日西  
城山殿奉所。○日年二月廿八日

中書傳抄之書也。

中書抄附。同八年四月五日奉

九部。同八月廿五日西元古動中書傳

城。同十年八月五日

公親院殿附。同十年八月五日

孝養院殿也。延生也。是日所為之用

○同年十月廿五日所發書也。所東

是夜中相動也。有。懷書卷物三

○同年十月廿五日中書傳抄。明和

元年十月廿五日

○同書傳抄廣義。同用達。○同七年

五月西元中移流前新起也。是矣

○同書傳抄用也。動也。懷書五枚。○

同書傳抄七年八月十五日。同書傳抄廣

義傳抄也。頭。○同八年四月十五日

○同書傳抄也。○同年十月廿五日

勤。天明元年正月廿三日。勤  
。日二年三月廿三日。先免。四年  
七月廿三日。七年二月廿三日。葬  
。同寺

彌生門 豊吉 孫吉

義晨

安永三年正月廿三日。初見。天明三

年十月廿四日。家督。四年七月廿四日。  
。九年十一月廿四日。病。慶  
。寛政元年閏九月十九日。世。清世  
。詔。同三年十一月廿四日。同  
。二年正月廿五日。世。同二年閏二  
。月十九日。百。以下。同。扶持  
。十人。同。



Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

嚴有院殿御林



中山

高千石

藤原姓

家紋三文字 藤原 九角 紋 五三桐

時定  
可出

先祖不詳 中判部出陣重村長男

五郎左衛門

民部大補

勝州

尾張國若多郡中内村邊小尾洞

秋河云可代領並下永祿元年  
頃智多外水野中督信元押領  
依一少衆之松尾尾中山外家屬  
中野中幕下

傳通院殿將村之宮宮神若此有教  
小辨別但依有傳孫村奉為養女  
久松依渡寺定後中女嫁孫田信長  
宮依渡寺村

傳通院殿年甲子或人勝村中連下  
。永祿二年正月

東正宮尾中中中疎之村初是領所  
道前故中傳所中自之火繩  
其百助款上商村調作品中備三  
比為甲中中側比為立置其筆定大  
長刀持外中中切服持直中  
勝政下中傳。先死葬高野山

古様領長刀勝政家節初孫之初初孫是  
方古傳介三所持

五所書門

某

天正三年

東照宮内魔中奉仕。水野和泉守忠  
重正為附。元禄十一年水野於西  
初年。其備後福家。百五家中

雜教山家節相多事

勝政

勝政

天正十年明智謀反時

東照宮内首路為。其後白子

山家為。百五家中五人年五孫

引年。山家下。其後孫信雄

以上信雄初後天正八年十月  
東宮上 百於志國令部部部五  
百有上等其天取山事山動。慶長  
七年八月廿九日  
傳通院殿出遊去。初由緒有  
遺物如蘇杭之唐盆并山是并  
頃。同八年三月十八日死。年九  
葬高野山  
拜領。名。初。後。初。時。定。名。所。持。

東宮  
酒石園

盛信

東宮園東 中宮之舊於尾州中見  
直下世子一。百。上。之。所。為。所。  
再。之。力。之。は。台。家。 中意水野  
和泉守忠重。上。高附元禄十年  
水野初。庶幼年。之。元家中離教  
○西方。比。抱。入。古。成。五。回。村。中。山

市部時局

勝光 左門

大政印傳時部屋の討死

植園門

重時

文祿四年

東照宮部屋在大政印傳時部屋

○慶長十八年家督○寛永十五年  
年三月九日死葬大坂大蓮寺

十津老門

政長

慶長七年正月廿五日

東照宮新殿大書之百〇二日

政長初死之時實任二年十月十八日  
小龍山丁京町村也此之中山寺門

家

猪苗門

幸時

通附改

寛永十年部屋傳。中津江三官傳。  
早五年家督。元禄四年八月  
卒。葬西條天徳寺。

時長

丸龜

明暦三年初見。萬治三年七月  
十六日。中津江。真享二年二月。葬  
丸龜。同寺。

半在傳門

政時

延暦八年八月廿八。初見。貞享三年

七月廿九日父部屋在三百俵上書  
情。元禄四年八月十二日嫡孫胤  
親家督不弟内。同年十月七日死  
年四十一歳。葬。口。寺。

大徳寺

二十一年

時之

實者中山出。時表長會。

時家督。書。在。中。病。死。年。四。十。一。  
實者。部。五。百。俵。上。上。時。之。氏。因。難。  
之。續。云。元。禄。四。年。十。月。廿。九。日。時。  
時。自。身。存。在。三。百。俵。上。書。情。實。者。三。  
年。九。月。廿。九。日。死。年。四。十。一。歳。葬。口。寺。

時

二十一年

實者如孫士加國臣好言

孝子。實永三年十月廿五日。家督

○言保四年十月十八日。中書院。病

之。○不。知。教。教。義。經。元

大。穿。五。有。十九。於。洋。多。政。易。

甚。團。

五。齊。舊。

時。定。

寬文二年十月九日。新。親。中。十八。扶

時。○。四。月。十八。初。之。○。四。年。十。月。九

日。○。皇。親。百。儀。○。四。年。十。月。九。日。

○。病。戶。○。延。寶。元。年。十。月。九。日。○。佛

皇。親。百。儀。合。式。百。儀。○。貞。享。四

年。十。月。九。日。○。病。之。事。○。元。祿。十。三

年。十。月。九。日。○。元。祿。十。三。年。十。月。九。日。

皇。親。百。儀。



崇寧 皇祐 太平興國

時卷

宣和元年九月廿八日初之。○日星  
年五月廿六日。奉人。○家督。改  
元。建教。建之。時。奉人。據。奉。詳。○  
真字。元年。五月。十二日。納。元。祿  
二年。閏。正月。廿三日。納。元。祿。○

八年。閏。八月。廿八日。納。元。祿。○  
十月。十八日。奉。元。○日。廿五日。加。獲  
三。百。石。○日。九月。十九日。奉。元。祿。  
○元。祿。十年。四月。十日。大。坂。川。筋  
中。川。筋。○日。十年。三月。十日。奉。元。祿。  
○日。十年。四月。廿五日。大。坂。川。筋。○  
○日。十年。八月。廿五日。奉。元。祿。○日。十年。奉  
元。祿。八年。閏。八月。廿五日。○  
加。獲。者

石合年五重。四年十月十八日叙  
爵。享德四年正月廿八日。○  
享德七年正月廿八日。○  
其成耳。聞之。火事。馬。上。難。事。  
勤。以。事。日。後。休。出。也。古。氣。處。○  
同。年。二月。九。日。身。七。九。程。之。成。不。為。  
思。官。火。事。場。事。者。思。官。有。一。言。  
中。後。廿。日。可。事。勤。之。行。後。○  
日。星。

件。火。事。場。之。作。事。○  
廿九日。老。免。事。合。金。五。枚。附。服。五。○  
同。九。年。七。月。廿。九。日。對。官。三。百。俵。○  
實。保。元。年。十。月。廿。九。日。九。年。案。  
葬。古。由。龍。真。寺。

其。以。高。麗。八。傳。流。之。由。馬。傳。之。事。表。志。  
國。文。古。流。表。之。練。付。之。日。懷。受。呀。指。  
其。以。傳。家。書。信。

吉野

吉野衛門

豐時

元禄十一年四月廿八日初之。○廣永  
二年四月十八日元禄十一年三月葬  
同吉

半五郎

半右衛門

時當

博著根来源三郎長忠重

霜永二年正月十日初之。○廣永  
七年正月十日父長忠重火事場上  
再娶与方内心与元三在吉野山小  
性温三言俵。○同九年七月十九日  
家督。○同十年正月廿八日大坂  
中目付代山根。○同九年九月廿七日  
得。○同十年四月廿七日元禄  
二年葬。○同吉





青身才者叙爵。○同。○服。○宿曆  
兼七月廿七日中勅定也。○同。○  
年三月廿七日中勅定也。○同。○  
八月廿七日中勅定也。○同。○  
同七年八月廿七日中勅定也。○同。○  
○同八年正月廿七日中勅定也。○同。○  
年三月廿七日中勅定也。○同。○

日里威德院

大隅

大下

時壽

往來

延享四年十月廿七日。○  
元年十月廿七日。○  
同元年十月廿七日。○  
月十八日。○  
宿曆二年。○

中世出産。○同四年五月十日  
日清使節歸朝。○同五年六月十日  
日清使節歸朝。○同六年七月十日  
日清使節歸朝。○同七年八月十日  
日清使節歸朝。○同八年九月十日  
日清使節歸朝。○同九年十月十日  
日清使節歸朝。○同十年十一月十日  
日清使節歸朝。○同十一年十二月十日

時章

信稿

菅原

安永三年四月七日家督。○同年  
十二月廿二日初之。○天明元年正月  
十九日元三年三月廿二日葬龍山寺

時倫

知障

乙次郎

藤五郎

實者時壽司

天明元年五月六日  
日身八月六日初見  
日七年駿府  
日八年三月三日  
日九年三月三日  
日十年三月三日  
日十一年三月三日  
日十二年三月三日  
日十三年三月三日  
日十四年三月三日  
日十五年三月三日  
日十六年三月三日  
日十七年三月三日  
日十八年三月三日  
日十九年三月三日  
日二十年三月三日  
日二十一年三月三日  
日二十二年三月三日  
日二十三年三月三日  
日二十四年三月三日  
日二十五年三月三日  
日二十六年三月三日  
日二十七年三月三日  
日二十八年三月三日  
日二十九年三月三日  
日三十年三月三日

善江所引渡  
十枚  
年五月十四日  
拜領



*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

大猷院殿御代

中山

藤原姓

高五百石

家教 三文字 皮

丸内 三階 麦

中務省内膳政者中山宗盛

忠直長男

宗夫

豊忠

長時忠

大藏院藏所代部所傳別殿在百葉大勝  
事。

清物院藏所無蛇頭。自享五年八  
月廿九日葬龍興寺。實名

藤吉美

勝政

實者長谷川形部西登三郎

實文八年八月廿九日初見。同日  
年八月十日櫻田殿表忠性  
武百傳。自享四年七月十八日  
伊波書加姓百傳。元祿元年  
十二月十五日。表忠性百傳  
。同享五年正月十日。伊波書加  
都合五百傳。同享五年正月十日  
死葬小日向龍興寺

新古園門

勝秋

勝秋卷之度如生。○延寶七年十月  
九月初見。○天和三年十月日新  
親大由書云百俵。○元禄五年平  
十九。排之出物名。○享保八年  
甲午七月富平之出書云書園也。

日昇十二年五月廿九日新古園門

新古園門

勝興

元禄三年八月廿九日新古園門  
卷子。○續曆二年七月廿九日新古園  
改改人姓名。其書中書細字。○同  
年新古園門。是書。右。月。門。任。

在毛之虞病氣先重之自卷子乳舌  
義如原相成切之有以原之四年  
九月八日死葬日向家新築

五辭去矣

膳周

元祿七年二月十日極名初見。日  
身七月十日家督。日十三年

十月十日山姓延。寶永元年十  
二月十日西坪林火之毒。四三  
年三月五日百保之武女。日三  
月十日山姓延。四年閏月  
某。桐川山事。正德三年春  
十八。山事院。元文三年春  
八月死葬日向

五部大夫

勝安

元文三年十二月四日  
保三年十月十日  
曆三年十月十日

五部大夫

書三部

勝平

實者中長衣

實曆三年十二月廿四日  
明和五年十月廿四日  
安永八年四月十日  
天明元年五月廿六日  
同三年閏十月廿三日  
八年二月九日

吉澤所

勝切

曾著小笠原雅敏此持易書

天明七年十一月廿一日 辨

同八年五月三日 家督

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

東照宮御伏

中山

藤原性

高四郎

家教

交字和皮  
丸内和皮  
五三和

中食部大補勝則會精衛門

勝政五郎

宗右衛門

在

道及

忠直

年月日... 各... 冊子

東... 慶長十一年

台... 慶長十一年

永... 永九年

大... 日... 領... 領...

後... 領... 領...

中... 領... 領...

天... 領... 領...

葬... 領... 領...

三... 領... 領...

忠... 忠勝

兄... 領... 領...

曾... 領... 領...

初... 領... 領...

元... 領... 領...

死辭回書

三辭次

勝頭

延治四年二月廿八日初見。○元禄  
三年十二月十日為替。○同  
元禄四年八月  
廿八日病之。○享保五年七月

未

未

廿五死。享年四十七。葬於小名金  
剛寺

三辭次

吉才所

勝郷

享保八年三月六日足病。子年二  
男。○同九年九月廿九日。家督  
○享保十八年十二月廿八日



中書。○寶曆三年閏十月二十日。○  
十五日。葬。龍興寺。

三所園

錦江中

勝親

寶曆三年十月廿七日。家督。○同  
八年十月廿八日。初見。○同九年。有  
才。大出書。○同十年。四月十八日。

新出書。○安永三年正月廿七日。死。○年  
四。葬。同寺。

橋三郎

長三郎

勝將

寶曆三年。勝親改會。  
卷子。○安永三年閏正月廿五日。  
葬。○同五年十月廿七日。初見。○

天明三年二月四日大書。四年  
二月廿三日新書。同三年九月  
九年二月廿三日新書。

地師七

勝直

會者勝部三書

天明三年九月十日新書

智

嚴有德殿



中山

藤原雅

高晉

家教  
三三三  
相

孝康山

中山  
權左衛門  
勝國守

次郎衛門

又四郎

久寛

寛文四年  
冬  
名  
三  
官  
名  
中  
無  
後  
。延

享元年大正書。自享元年新出書  
賀孝儀。元祿五年七月廿八日  
桐園中書。同治六年書信。同七年  
新出書。享德三年病之書信。死  
葬之天德寺中榮壽寺

勝秀

中書 塚園門 金部 水馬

實者中山權衛門勝尋重  
享保五年十月廿四日書信。同  
十年十月廿六日書信。同  
十月廿六日書信。同

次光

賜在少天史烈三書

水馬

水馬

享保十五年十二月廿五朔  
牙年十二月廿五朔  
日廿五朔  
八年

宝元

此部右邊門

寶元馬太夫史列五  
元文三年九月

寶元馬太夫史列五  
元文三年九月

直心

忠次郎

寶元元年并全摘直心  
安永二年五月廿五朔  
改元八月八日

*[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]*

有徳院御所代

中井

友原姓

心口拾儀三人持

家紋 右限之内拾段

中井源左衛門儀久男中井

太左衛門儀政惣領

猶右衛門

儀似

貞享五年二月廿一日

中井

安官沙查所見習沙查云○元  
祿元年十一月廿六日家造○享保  
之年宵晦日

有德院教部切丸記為 今部

沙丸○同年六月廿九日法胎

所人切來田信後之人扶持○

享保十七年七月廿四日

天英院教部胎所組記○元文

二年也沙查云切丸記為 今部

仕名沙查云切丸記為 今部  
二月十日所見之復浪拾及平  
云及言 沙丸記表沙查云  
云此云云元文元年十一月廿六日  
死七拾日京市各袋寺町  
淨榮寺上葬

軍書 初 半書

儀剛

享保元年十一月七日

見習少将也○同十九年十月  
廿二日表少将所人少将兼少将  
○同<sup>年</sup>年十月之日家格少将  
口指儀之人技持<sup>之</sup>○寛保  
元年十月廿四日少将所少将  
所人<sup>之</sup>作少将是<sup>之</sup>拾教<sup>之</sup>也  
故各少将儀之人技持○寛保二  
年十月廿七日西九月廿七日移替  
之飛少将也○寛保三年十月

大日组附役○寛曆元年十月  
廿七日

有徳院殿 豊清寺同年七月

十四日

大納言殿所○同十年十月十三日  
御中九月廿七日○明和六年十一  
月九日西九月廿七日所組以○安  
永六年十月廿一日西九月廿七日  
所改○天明八年十月廿七日



明治二十年十月九日  
同日十月九日  
小菅屋入○寛政二年十月十日  
死七十八年同日

儀智

初松廊

明治七年十月九日  
表沙屋所見得○安永三年  
七月廿三日西丸表沙屋所見

同六年四月廿一日  
同七年三月廿一日  
同九年九月  
時辰二

めくれず

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

申照嘉代

中井

高小石主替

楯姓

始 巨勢

家紋

輪邊 楯

武内宿禰之三男小楯之宿禰之  
後胤巨勢織後吉乾嫡子巨  
勢源義房正範因五百某  
伯系と書ふ乾の成と以  
故に和良人乾源と書と云

天文七年正月御首并順慶  
上萬歲儀奉与一錢之刺巨勢  
孫之房和兵家村石橋言討  
死仕不知年子一男巨勢源  
太夫正名二男巨勢昌太夫正利  
巨勢甚太夫正利依紀勘勘勘  
有徳院叙御代正名出當時西九  
為書院者以巨勢日向与火海院

求馬之助先祖与一男巨勢  
孫太夫正名嫡子

大和寺 初名 友右衛門

正清

天正十六年於御見

東照宮上御見是也正名出知  
武白石以下其部苗字巨勢  
古乃中井仕役名正名後言  
石乃知徳以下正名出知

加増市下並郡部判物末頂戴  
仕所相領より慶長十一年從五位  
下大和守に作有同十四年  
十月八日少加増市下並大和國  
添下郡城村外川村小和原  
三ヶ所を教令より添下郡印  
頂戴仕大和守名に於て御筆  
以下並今も不持仕

一 加増市下並郡部判物末頂戴  
公方家より從五位下之後に及  
用良村紙菊物申井大和守より  
道中之吟味に於て御筆に於て  
從用市下並郡部判物末頂戴  
刻為添下軍役末位 御免之也  
於て可證又亦見他言に於て  
同ヶ原所陣之後に於て御筆に  
六國國大上拙人教令万六石

人余之没之事 冲领私领大  
 冲免成下向没冲军没之  
 勤令 上意之大和守之配之  
 仕令之作令之没大工田白田  
 高没 冲免许之没寛永十一年  
 年九月七日寛文六年九月  
 十日寛永八年八月廿七日  
 三月冲老中方冲奉書と  
 知事之冲免許之没令之京都

冲郡代 天町奉沙  
 右冲奉書之内先祖中井之  
 可令有之冲文言有之冲奉書  
 之通不之令不持仕之没徳之  
 年之没内迫江之没國大工  
 冲大踏之冲改有之右之節之  
 没冲高懐の控不持仕之令  
 大工冲木挽之配仕令  
 一 関ヶ原冲陣不

東照宮中陣羽織大和与洋領  
今一不持仕

一 紀元熊野山松本与沙谷京  
都步鎗至他處下以侍才  
三拾不出來獻仕右之  
步鎗三拾中大和与洋領仕今  
不持仕

一 於駿府福留一夢入  
上侍作鉄炮之書抄大和与

上下一並勢古仕右依  
上意一夢相持仕右右書抄  
今不持仕

一 慶長七年大和与大坂御城  
中上侍隱密言以老後番等  
相徳

一 大坂御陣之御家来之者  
仕之書抄仕右依  
上意鉄炮之書抄大和与洋領

鉄炮其外武器多為持在左  
大勢已運涉伏仕茶臼山  
陣場之下為陣小為下重  
右之前將長吉部次郎重  
中平部一之右之武器少  
少之形骸可持仕  
慶長十三年

禁中方法多處可見  
見分御用大和守  
作部駿府

京都 上 氏登公知駿府 涉城  
燒失右之部京都 分二日 兼志  
仕等之部於涉系貞宗之涉脇  
是涉領仕 同年 駿府 涉大  
守 涉造 早之部 守家之涉太  
刀 涉馬 涉領 涉津 太刀 今不  
持仕 貞宗 涉服 是志 先子  
燒失仕

同十六年

院御所清教清造管下成進方  
作出從後府大和子北堂板念  
伊賀子教上女房之奉書  
清教御所仕上後上流右  
奉書大和子右清屋上公室也  
可仕方上意洋領上今而持  
仕公  
一  
同十七年七月十日  
禁裏御造管下 伊賀子

東照宮御下大和子頂戴仕  
同日尾羽名護全御藏多  
車下 伊賀子

東照宮御下大和子頂戴仕同日  
伊賀子御藏多  
下名下首

東照宮御下大和子頂戴仕右  
同十七年三月十日 伊賀子



一 大和与倭

東照宮御具足活領仕人駿府

与大和与石炭類境之御右所

具足之場失仕人

一 同元年

柿書表御上棟之刻長

柿書表御上棟之日月所從四位下之位階

大和与頂戴仕人

一 京都就御用大和与在系仕人

柿書表 名護全御城 大佛殿大

三少不之少在御位以造早之表

東照宮御機操之旨書老中方

書狀

台位院殿少履次之方御位

与御書狀在河原今不持法

駿府御書御書進大和与在遣

御用之御相知御京都御書

及御書御書御書御書御書

一 於駿府

於駿府

東照宮御筆御後冊大和守洋領

仕今不仕

台使院御筆七歳之節御筆

在也天神之名號洋領仕

今不仕

駿府御城御後冊大和守

筆御画洋領今不仕

一 於駿府御筆御後冊大和守

御筆御画御後冊大和守

大和守御判仕御後冊大和守

職人御判仕

御判仕御後冊大和守

御判仕御後冊大和守

御判仕御後冊大和守

御判仕御後冊大和守

御判仕御後冊大和守

一  
清宮書一今不持住  
智恩院上代之唯今執至堂  
之不為清宮

東照宮清宮好之在令之寺北板  
倉伊賀之助下之住持堂社之  
後以下大和之住持

一  
日光  
清宮地見分之用却之東分  
之承次大和之住持木敷住

台徳院教奉儀上覽

一  
清宮清造宮大和之住持  
日光山清用有從系職人天  
下下之住持倉伊賀之助  
大和之住持南光坊住持  
大和之書狀今不持住  
增上寺清宮住持  
寺之清承次大和之住持  
右之清法中一系之清用

正好

大和寺名在登壇上寺法華寺傳  
之傳身中由依法寺於法華狀  
觀智國師大和寺上書作  
今而於任右大和寺後元和文  
年正月十日死洛陽長壽寺  
下葬

正馬

正清寺之馬儀於駿府

正統

東照宮

正統寺此組○為東

身為養正寺都正法服正正

元德二年七月廿九日卒

下葬

正統

大和寺

正統

中井正水正統元年卒後見○  
徒正正下正正正後正正正

正信

大和

長吉郎

慶長十八年

東照宮

台徳院教旨古書載之初見大坂

由慶之御傳又一續記云結

之後以大和寺正信滿武之下

知所子石洋領○寛永四年

台徳院教旨朱印知所子石洋

正信妻

葬

海友原屋島忠女

重旨之介取持○同年十月

十日從五位下大和守○伊

奈諸事涉常任之御用定

て水勅旨○同八年十月府又

大和守才中井也御助院

將長吉郎御養子○同年

十月十日於河内紀批云領

右正儀書 武田淨  
連書 武田淨

東照宮御存知事書 武田淨  
一  
涉取均書 武田淨  
一  
緒書 二條於書 武田淨

東照宮御存知事書 武田淨  
一  
涉取均書 武田淨  
一  
緒書 二條於書 武田淨

正知

正水正 大和寺 長三郎初名

實中井助陽在仕 淨光

寬永八年十月十日 養父大和

病死仕書 正知初年

實父五郎助書 淨光

仕書 正知初年

之續書 淨光

和行子石之内也百之石  
六百石之下也弟物成實永  
十八年正月廿六日從五條下大和  
公傳身二行同大和子正娘之通  
清事公相勤之後後是相退  
名内通氏与政慶安元年  
之水正和家督為沙礼壽  
日寅十二日於沙礼書院所  
目見同日

竹久代君西元放沙白書院  
御目見兼應三年從五位下  
大和子正娘身為父附沙書院  
相勤之京於上之沙帳洋領也  
尚書書見之於上〇万治二年  
御中九沙書院書沙用身也  
為百系府仕同二月官於沙  
白書院御目見沙書院也  
久世大和子敏也御身也

仕度事類

若者院致於 沙希之水心之相  
少秋正修後正後正自於陳山後  
如何之次不知○而此九月沙希  
沙造平沙掃徒之旨沙希台例  
石原造依之仕方西九月去用  
石原之何仕 中興之旨  
百部 中言葉下 中興  
之沙後右方 沙希仕○月有

十日即月是同日京都沙希  
沙致附時帳二白展致○在府  
中紅葉心

市社恭沙依女友○實文元年  
禁裏 院中表之身沙造是法用

十月七日 百部同八月日  
市自見○同月七日京都沙希  
白展三枚○同九年十月十八日  
市新沙希事仕方長達



上聞獲浪之積收并道山所  
所司代板倉内膳正殿之任也○  
寛文十一年十月十日上方之  
所用出精仕之任連 上聞獲  
浪之積收并道山所司代板  
倉内膳正殿之任也○  
而司代永井伊賀守殿之任也  
○寛文十三年十月十日上方  
之任連系府

父子之任連附時任二○延寶  
五年十月八日

禁裏院中御造常所用相勤  
獲浪之積收時任二員令二任將  
長也○同七年十月  
十五日御影之任連之任連之  
胎子不如意之由也○先中方面及  
上聞連上聞白浪拾貫目也  
下○天和二年九月十六日常

治奉公精入相勳位 上聞  
獲浪拾貫目下 ○貞享三年  
加秩少使方二十人技持 ○同年  
沖代留為少從父子九年府

所目見 ○日青十八京都為取  
時後二洋領牌上浪少技洋領  
○元祿二年之水心相將保家  
新規少技方拾五人技持  
父子天少長去相勳位少作後

元祿十年之水心相後二條御  
城大少者少被損年少少加  
下相勳者少少技持少人技持  
之下將源八部少後等同少可  
相勳方少後後 沖城內少被損  
方帳由少飛連別仕少 ○元祿  
十年丁丑月十日之夜二條御城  
壬午色松倉町通榎木町下少  
出火乃大火於場前所司少松年

紀伊守教人工凡六百九十人  
家壞如如修造如如大工凡八人  
亡教且消防之道具中亡用意  
不仕年明之年  
所方角二條河城由是之  
所修造不亡色出火之物之  
棟棟梁并大工凡百連消防  
之道具用意為仕消防為  
仕之役之役

寶永七年丁丑月十日  
長且

東照宮御代  
御身之代御在續於京都  
兼且御用勤來以矩按以名  
存生中按五人扶持○名淨美  
之改正德永年四月廿六日死  
同年十月

虞天高

長五郎

叢有院敏御代父之水正和相勤月  
久男相勤家務必身事頼清  
相退福生之身与改名仕浪人  
正正元祿七年八月十一日死  
同守一系并

正雄

源八郎

初名長之助

常憲院敬御代父之水正和相勤

少男見習○病身身事頼清  
相退之後松兵衛右衛門正徳五  
年正月四日死同守一系并

正水

初名正之助

正豊

浪人傳者實巨勢老仙正徳二男

寶永七年正月家造知行  
少男正美加信持持河役持  
持河河保人持持養父之水也

清波○正徳元年江户幕府  
正月十日見○同正月十日  
京都清波時服二○享保九年  
伴正連系府清目見○同六  
月六日京都古服時服二件  
友三郎一白浪之役許領○同  
二十年正月十日死同寺葬

嘉徳

吉水系一友三郎

六

享保九年正月十日見習  
○同十年閏正月七日家造初  
吉水系一友三郎加増技持  
少役技持或給人技持  
通清波○寛延三年六月十日  
北同寺葬

正茂

友三郎一吉水

寛延三年九月十日家造葬

加信武拾人技拾下○同日  
年十月十日部方之候身又  
云幾月矣由江國大工松木抗  
常之通而配了仕旨○同日  
七月廿九日在氷与政○寶曆  
六年六月廿八日女阿市役  
事没技拾人技拾○寶曆  
六年八月十日江島山門吉修  
儀少用復浪拾取○寶曆

六

六年十月廿六日針文○陽曆  
女部所取所星沙致吉修儀少用  
復浪十枚○同年十一月廿八日  
二條所取沙金沙修儀少用  
復浪拾取○寶曆八年正月  
廿九日江只執多橋沙修儀少  
見廻一復浪拾取○寶曆  
十三年十月廿五日  
桃園院沙法事一所用復浪

水指投○寶曆十二年一月  
河州山門沙修儀沙用復銀  
指五枚○同十四年一月未二百  
清涼教常也○沙常法所用  
復銀指五枚○同年四月十六日  
城品波大橋小橋沙常法中  
具早一復銀拾枚○明和三年  
年四月九日所月代三全教沙修  
儀沙用復銀拾枚○明和四年

十月七日

准后門方沙別教沙常法所用  
復銀拾枚○明和六年一月  
根來在月知行不江島野洲郡  
富波沃村百姓法常法使免役  
免許之及然公使才大工組以利  
右邊上通一相尋山返与後前  
之沃子不和礼櫻書物志不在月

方長吏役免除相之儀之度  
中世清書信等事之紙之辭  
信宮長出後不引書後手同年  
十月廿九日若相同十月廿九日  
卯免○同七年同六月四日從  
小橋方掛並英大橋方終後中  
見早方用慶辰拾枚○同八  
年五月二日

仙洞御所方書信部用慶辰拾枚

同九年九月十八日御勢多橋  
方書信部用慶辰拾枚○安永  
三年十月十日御勢多橋方掛  
並方終後中見早方用慶辰拾  
枚○勤簡之儀方書信部用  
同九年十月十日御勢多橋方  
書信部用慶辰拾枚○安永  
三年十月十日御勢多橋方掛  
並方終後中見早方用慶辰拾  
枚○勤簡之儀方書信部用



少用白布收之紙具並紙  
筆奉納少書字相傳  
少用和紙紙目少紙目少  
所見是先檢之通少  
獻之○七月方二日京都少  
時後二○同七年一月八日所  
三少少少少少少少少少  
白紙拾枚○同年一月廿  
加具少少少少少少少少少

銀紙拾枚○同年一月廿  
院少少少少少少少少少  
八年一月廿八日少少少  
銀紙拾枚○同九年七月廿

後桃園院少法事少用  
○同年一月廿八日泉涌寺少  
少少少少少少少少少  
清淨教少少少少少少  
少少少少少少少少少

天明元年四月廿八日 唯后  
津敷沙引走法建修法寺修法  
用復銀拾枚○同年六月  
十九日知恩院法修法寺用復  
銀拾枚○同二年二月十九日  
江表山門諸堂社法修法寺用  
復銀貳拾枚○天正元年二月十日  
城加法大橋寺御法寺修法中  
見上相動復銀拾枚○同年

土月廿九日江表熱多橋法寺  
法寺修法中見上相動復銀拾枚

○同四年正月十八日

豐化門院法華寺送法寺法事寺用

復銀拾枚○天明八年六月十日

不可代三島法寺修法寺用復銀

七枚○同年九月廿六日

禁裏 津所方之外法寺修法寺用

○同年十一月廿七日洛陽長香

寺子孫

卷之三

正紀

天明四年丁酉七月七日見習○  
 同八年丁酉月京都出火之節  
 人數消防出積結多沙席之  
 可云連 御聽旨。同六月九日  
 沙書付之云云作傳○同九年  
 正月七日家督御行米二十人

杖乃外沙及杖乃沙拾人杖乃  
 如又附之如勤方○寛政元年育  
 十七日又云水代

柿中表所所方其外沙書信沙用  
 正 作沙之辰不月外松平和泉守  
 正 信屋同年同六月本百申年申  
 二條河城内外所具代山金卷之外  
 諸沙及宅諸指沙書信沙用  
 右勤公才為沙後表白限拾方收

○同年十一月十日

禁裏 市所方外 造是 市入用 凡積

出 身 仕 少 知 吟 味 仍 在 身 諸 棟

梁 諸 清 負 人 未 占 割 培 成 多 少 欣

古 成 格 別 出 精 身 苗 元 為 乃

復 災 白 辰 拾 枚 ○ 實 政 三 年 三 月

十 日 泉 涌 寺 寺 修 復 用 復

限 拾 枚 ○ 實 政 三 年 三 月 十 五 日

禁 裏 市 所 方 外 市 會 德 寺 用

復 金 三 枚 同 日 城 品 從 大 橋 間

小 橋 河 至 進 河 名 會 德 寺 又 早

七 相 勤 公 身 復 限 七 枚 ○ 同 年 三 月

晦 日

善 濟 門 院 沙 葬 送 河 法 事 用

復 限 拾 枚 ○ 實 政 三 年 九 月 二 日

城 品 字 治 橋 法 會 法 中 見 了 相 勤

公 身 復 限 七 枚 ○ 同 年 十 月 初 日

江 島 勢 多 橋 沙 會 法 中 見 早

慶長拾枚○寛政六年七月五日  
中宮御所沙遣之沙因掛、慶長  
拾枚別段白紙一枚○同六年、  
表紙系上仕上月十日、御目見沙  
之火緒獻上○同、七月九日、京都  
沙眼時、取二○同七年、育書  
中宮御所沙遣之間、沙床下、濕  
氣高、沙損、有之、沙、  
表紙系上仕、初之、  
表紙系上仕、初之、

車身、御目見、遠急之格○  
同六月十日、沙免○寛政八年  
八月九日

恭禮門院沙葬送沙、  
用之、慶長拾枚○同九年、  
七月、  
七月、  
同十年、  
知、

同五年十二月十六日山門諸堂社  
少後復用復後拾投同日送  
書稿中善傳中見且相初身存  
七牧

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

信院殿

中井

祭

高橋依

紀姓

家紋

并筒

長津一旗辻長門弓面之次男

取明石石橋山智孫而之古以帝主先一者  
此の感懐ありて一書思妻芳通一主上命不天紋

大井中井一店司一編和漢

中井民部丞一店司一編和漢

河内國交野郡楠葉村坂中

井表之村春之次男

九敬

通事文部省庶務司 利登 齋三

宝曆九年二月廿一日出統一白免  
らり。○甲午年四月三日評定所  
五福書津用出後日午丁子十月  
十日右後浪乃夜津候御番。  
甲午年二月廿一日日光寺津用  
津靈屋其外所て出候後宵  
五福書津用出後日○甲午八月

出候浪十枚石出用中甲午年  
二月廿一日京大坂より新田等小  
舟取つて津和根並八乃島に候  
浪川筋見分出用出初定分候後  
伊奈重丸等一は臨川月廿六日嚴  
令控由。○和之年七月廿八日足  
正津信津靈屋之外可て出候後  
津用之邊方御少舟登浪十枚  
○甲午十月廿一日伊奈重丸より先







一、水正、宣月廿八日、  
宣月廿九日、宣月三十日、  
宣月一日、宣月二日、  
宣月三日、宣月四日、  
宣月五日、宣月六日、  
宣月七日、宣月八日、  
宣月九日、宣月十日、  
宣月十一日、宣月十二日、  
宣月十三日、宣月十四日、  
宣月十五日、宣月十六日、  
宣月十七日、宣月十八日、  
宣月十九日、宣月二十日、  
宣月二十一日、宣月二十二日、  
宣月二十三日、宣月二十四日、  
宣月二十五日、宣月二十六日、  
宣月二十七日、宣月二十八日、  
宣月二十九日、宣月三十日、

廿三日、宣月二十五日、  
宣月二十七日、宣月二十  
九日、宣月三十一日、  
宣月一日、宣月二日、  
宣月三日、宣月四日、  
宣月五日、宣月六日、  
宣月七日、宣月八日、  
宣月九日、宣月十日、  
宣月十一日、宣月十二日、  
宣月十三日、宣月十四日、  
宣月十五日、宣月十六日、  
宣月十七日、宣月十八日、  
宣月十九日、宣月二十日、  
宣月二十一日、宣月二十二日、  
宣月二十三日、宣月二十四日、  
宣月二十五日、宣月二十六日、  
宣月二十七日、宣月二十八日、  
宣月二十九日、宣月三十日、  
宣月三十一日、

甲辰一陽春替。國十年一月廿九日  
甲州門之。西遷。新大。元  
年六月十九日。夜。集。令。或。投。可。集  
財。藏。口。七年。四月。廿。日。方。石。境  
地。或。死。陰。奧。四。陽。春。替。同。年  
三月廿七日。出。代。官。事。未。補。命。主。統  
所。一。更。歸。一。一。大。城。表。一。是。は  
新。首。出。て。日。月。廿。日。出。時。令。夜  
時。一。く。一。石。川。用。い。少。上。城。中

楚程を記。仁洞。其。外。行。新。向。曉。夫  
少。村。出。助。定。組。以。出。助。定。方。を。と  
る。一。村。出。代。官。大。屋。に。寄。る。清。下  
流。少。く。東。京。信。一。と。首。一。と。同。八  
年。一。月。廿。六。日。陽。春。替。同。年。一。月。廿  
二日。關。東。に。川。出。寄。居。定。を。官。取  
元年。一。月。廿。六。日。有。あ。り。日。出。代。官。同。日。に  
九月。十二日。を。方。依。地。地。甲。州。を。初  
中の。候。村。出。年。の。節。と。是。あり

日平年八月廿三日評定新下藤原  
赤井豊前守一人金子用方御成  
知事より調達仕置り候事  
此等御成より御成代金  
西一人御成御成代金  
に身金金子より御成代金  
代金御成より御成代金

かきく右定九馬御成御成  
御成御成御成御成御成  
且も木末御成御成御成  
御成御成御成御成御成  
御成御成御成御成御成  
御成御成御成御成御成  
御成御成御成御成御成  
御成御成御成御成御成  
御成御成御成御成御成  
御成御成御成御成御成

才一の儀と素略の事并於此の段  
と道方とと自ら言ひし由切米  
と放しとと後利發田年と心  
○日七も二日中に死ふ十に米牛也  
宗泰年一ノ年

宗休<sup>トモ</sup>

保良清太郎重宗重宗

安永七年十一月に日官勲候との  
交り正月廿日初之。日〇二日卒

四劫定山切米百俵。孝安の元年  
七月廿日又飛騨幼代大系飛六郎  
よ花不由山行し西光也格人外  
付りと一はより又の多記也格人  
信守一は日廿二日由依今由段  
日本十二日廿日由段。日五年  
六月廿二日又清美也格由依  
四切米百俵とと新記也手信下  
戸ねの事信入る如は日十一月



天保九年正月廿九日  
目付

*[Faint, illegible handwritten text in cursive script]*



